

 ポーランド&ニッポン歳時記 40(終) 

ポズナンの津田晃岐さんから「妻のモニカが9月10日の朝(ポーランド時間)亡くなりました。抗癌剤治療を受けていたのですが、前日までいつもと変わらない様子だったのに、あっという間に逝ってしまいました」と悲しい知らせが届きました。

津田モニカさんは POLE 第70号(2011.5)以来10年以上にわたり本誌「歳時記」を主宰し、昨夏、晃岐さんと共編/訳/注で『夏目漱石～俳句 Natsume Soseki, Haiku z lat 1889-1895』を出版されました。

私はモニカさんをワルシャワ大学で、晃岐さんを北大でお教えしたことがあり、個人的にも悲しみに堪えません。心からご冥福をお祈りします。(安藤厚)



=POLE72 より=

春野菜スープレの味の円やかさ
雲の峰札幌句会ご夫妻で
秋桜は天国の門天に生る
ホトトギス同人、霜田千代磨
(モニカ津田様を深悼す)

例会等の予定

創立35周年記念演奏会、札幌コンサートホール Kitara、2023年6月3日(土)

会員動向 (2022.9~12)

入会:鈴木飛鳥、徳田和可(敬称略)

ご寄付 (2022.9~12) 感謝します!

(1口千円)(15)2018年後のポエジア参加者(7)霜田千代磨

(2)安藤厚・むつみ・瞬、川染雅嗣、栗原朋友子、佐々木保子、土橋芳美、村田雄穂、山本伸一(1)小山内道子、北口久雄、小林浩子、佐藤晃一、前田理絵、松永吉史、和田芳子(順不同)

年会費 (2022.9~2023.8) 納入のお願い

年会費:一般3,000円、学生1,500円

また、維持会費としてご寄付(1口千円:任意)も承ります。

【ゆうちょ銀行振替口座】記号02740 5 番号19735 【加入者名】北海道ポーランド文化協会

店番(279)預金種目(当座)店名(二七九[ニナナキユウ]店)口座番号(0019735)

または

[北洋銀行(本店営業部)普通預金口座][店番号]028[口座番号]0605084

[加入者名]ホッカイドウポーランドブンカキョウカイ(北海道ポーランド文化協会 会長 安藤厚)

※ご請求額は個別の納入依頼(振替用紙同封)をご覧ください。

※遠方の方はご寄付(年千円)で会誌 POLE の定期読者になっていただくこともできます。事務局にお問い合わせください。

POLE108 目次

ポーランド名作映画ビデオ鑑賞&交流会2023《第104回例会》『エロイカ EROICA』2/20

《第105回例会》『イマジン IMAGINE』3/13(池田光良).....	1
《第36回定例総会》《創立35周年祝賀会》報告(安藤厚)木村和保氏逝去(井上紘一).....	2
川染雅嗣さんのリサイタルを聴いて(島崎昭).....	3
《第102回・第103回例会》報告(安藤厚).....	4
ポーランドのロマン主義～ミツキューヴィチ作『祖霊祭』の役割と意義(関口時正).....	5
《新刊紹介》『日ソ戦争 南樺太・千島の攻防』(黒岩幸子、尾形芳秀).....	6
ポーランド断章(先川信一郎)葛は葛でも(嵩文彦)身体楽器論(井上紘一).....	7
第36回定例総会議事録(議長 尾形芳秀).....	10
《ポーランド&ニッポン歳時記》40(終)津田モニカさん追悼(安藤厚、霜田千代磨).....	12

 <p>発行 北海道ポーランド文化協会 〒060-0018 札幌市中央区北18条西15丁目3-19 安藤方 TEL・FAX 011-556-8834、hokkaidopolandca@gmail.com</p>	<p>ポーレ編集委員会</p> <p>安藤厚／新井藤子 池田光良／氏間多伊子 熊谷敬子／松山敏</p>
	<p>東京事務所 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-29-309 音響計画(株) 霜田気付 TEL 03-6804-1058 FAX 03-6804-6058</p>



新会員のひと言



丸山 博

遅ればせながら会員にならせていただきます。ポーランドとの関わりは2017年私たちの国際会議にアマレヤ劇団が参加したことに始まります。それ以来今日まで、アマレヤの芸術監督カタジナ・パストウシヤク氏とは連日のようにメールをやり取りし、毎年メノコモシモシ(アイヌ女性会議)とアマレヤとの共同プロジェクトを実現してきました。その間、ポーランドには二度行きました。最初は2018年6月にアマレヤの拠点グダンスクに、二度目は同年10月にアマレヤの公演でクラクフに行きました。

今年はヤドヴィガ・ロドヴィッチ氏とアマレヤ、メノコモシモシの共同プロジェクト「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』」に関わることになりました。

その矢先、アマレヤからは助成金を獲得できなかった旨連絡が入り、メノコモシモシとの共同プロジェクトの火を消さぬよう、学生時代からの友人先川君の力を借りて、募金活動をはじめるところです。今後ともポーランドと関わっていくつもりです。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

(まるやま・ひろし、CEMiPoS* 所長)



先川 信一郎

北海道ポーランド文化協会に加入しました。元北海道新聞の記者です。海外駐在が長く、米マサチューセッツ工科大学(MIT)に留学後、カイロ、ワシントン、北京支局長を歴任しました。退職後は、高知工科大学の国際交流センターの所長を7年間勤め、現在は札幌市立大学で非常勤講師をしています。得意分野はジャーナリズムと国際関係論。趣味は映画鑑賞と登山です。最近は韓国やウクライナの近現代史の映画とドラマにはまっています。よろしく願い致します。

ポーランドとの出会いは、学生時代に見たアンジェイ・ワイダ監督の映画「地下水道」でした。ナチス・ドイツに追い詰められたポーランド軍が地下水道から最後の抵抗をした映画です。遠い世界のことと思っていましたが、記者として真冬のワルシャワを訪れた際、石畳の下に地下水道があるのに衝撃を受けました。しかも、ドイツ軍に破壊尽くされた旧市街は、壁の色まで昔の設計図通り再現されていたのです。そこにポーランド人の不屈の意思を感じました。

2回目の訪問は、それから36年後の2019年5月になります。国民的ロマン派詩人の名を冠したアダム・ミツケビッチ大学は親日的で、高知工科大学との大学間交流協定をすぐにOKしてくれました。同大学は世界最先端の量子コンピューターの研究で知られています。第二次大戦中ナチス・ドイツが使っていた暗号機エニグマを解読したのは、ポーランド人数学者だったことをこの時知りました。

ご存じのように、ポーランドは、世界でも有数の親日国です。同国を代表する独立劇団の一つ「アマレヤ劇団」とアイヌ民族の女性たちの直接の交流は、コロナ禍で途絶えていましたが、アマレヤのメンバーが札幌を再訪し、アイヌの女性たちとともに祖霊や自然への崇拝といった独自のアートの世界を披露してくれることを心待ちにしています。

(さきかわ・しんいちろう、高知工科大学客員教授)

ポーランド&ニッポン歳時記 39

アイ・ラブ・ユー

この春、大学で働いていたときの教え子が訪ねてきました。今はもう彼女自身が大学で教えています。I love you と箱に書いてあるチョコを持って来てくれました。

na drugim piętrze
w łazience świerszcz skąd wziął się
w naszym mieszkaniu

三階の
アパートで鳴く
キリギリス

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

świat za oknami
skwarem słońca drgający
choć zachód blisko

日の入りの
近くも燃える
世界かな

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョートル・ヴジェチョノ

夏の月照してゐるやウクライナ
白靴しろぐつのリズムシンブル北の街
生ビール飲むも爺ぢぢいの心意気
岩見沢市、霜田千代磨(ホトトギス)

コルチャック研究の進展

何よりも著者が現地ポーランド・クラクフでの語学留学にはじまり、ワルシャワ大学大学院(MC)での留学時に学んだことが下地になっている。そこでは、日本でもおなじみの W・タイス前ワルシャワ大学教授の指導を受けて、コルチャックの戦前の著作『子どもをいかに愛するか』(1918)をはじめとする作品やコルチャックに関する伝記的研究を手にするるとともに、1990年代から刊行がはじまり今年ようやく最終巻(第15巻)が出て、刊行がほぼ終了にたどり着いたポーランド語版コルチャック全集(Janusz Korczak, Dzieła, t. 1-16, Warszawa, 1992-)を入手して研究を進めた。

帰国後は北海道大学大学院(教育学)にて本格的に研究を開始し、関連する歴史研究書、社会福祉・教育史研究書、学術雑誌、また当時の教育・養育関連各種雑誌、そしてコルチャックの所属団体の年次報告書や実践同僚者たちの著作など、現在入手可能な限りの文献調査・収集にあたり、これらを利用して研究を組み立て、最終的に博士論文(2018年、北大大学院教育学院)として完成させたものである。

小児科医・孤児院長としての教育実践

本書では、若き小児科医時代のボランティア活動から、二つの孤児院の院長となる20年以上にわ

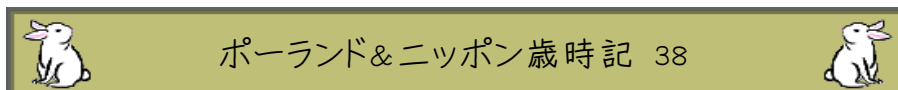
たる時期の、有名な「仲間裁判」を含む子どもの自律的自治活動を創造する多様な教育実践や活動総体の解明を目指している。なんと100年近く前の同国厚生省主催の養護施設職員向け研修で、彼は職員が「子どもの権利擁護官(オンブズマン)」となり子どもの権利リストの実現を任務とすべきと訴えていたことが最近わかったが、本書はそれが彼の教育実践を土台として成立したものと教えてくれる。



現在、わが国では、子どもの権利をめぐる国内の議論が、教育現場での子どもの権利の問題のみならず、子ども家庭庁の設置案や子ども基本法の制定案など、制度的な改革へと、ようやく踏み出そうしている。この議論の根をたどれば20世紀初めのコルチャックとその時代にさかのぼることができる(拙著『コルチャックと「子どもの権利」の源流』参照)。歴史を超えて響くコルチャックの子ども(人間)尊重の態度や思想、その具体的あり方を追求した彼の教育実践の内実について、ぜひ本書『ヤヌシ・コルチャックの教育実践』に触れ、じっくり考えていただきたい。

教育・福祉・ケアの仕事に関わる方のみならず、広く「大人」の皆様におすすめしたい一冊です。

(塚本智宏、札幌国際大学特任教授)



自然を眺める

今回の締め切りに何を書けばいいのかと考えていたら、辛い時に助けとなるものについて書けばいいのでは、と友達に言われました。やはり自然を眺めることでしょうか。

w wieczornej zorzy	夕焼けに
młodych listków na drzewach	若葉の香り
zielony zapach	蒼々と

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

sad po sąsiedzku	園に客
wita gości zapachem	香りで迎える
kwiatów jabłoni	花林檎

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

寒
戻り
死
神
ブ
ー
チ
ン
ほ
ほ
る
む
や
返
返
る
ブ
ー
チ
ン
戦
争
め
ち
ゃ
く
ち
ゃ
だ
砲
撃
の
中
立
っ
て
あ
る
冬
木
哉

岩見沢市、霜田千代磨

徳田貴子さんのピアノリサイタル「中札内公演」2021/08/29

村田 雄穂



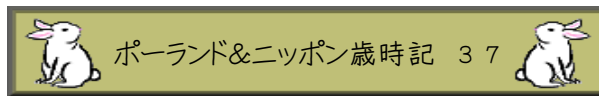
徳田貴子さん(本会会員)が中札内村でピアノリサイタルを開くことを8月になって知り、心は嬉しさと期待で満たされました。

これは何としてでも聴きに行かなければ、と思うと同時に、彼女がわざわざ中札内村にピアノを弾きに来る理由もすぐにわかりました。これは絶対に、彼女が FAZIOLI (ファツィオリ:イタリア製ピアノ)を弾きたいからだ!と。

今回の演目で私のお目当ては、まずシューマンの「クライスレリアーナ」。なかなか生演奏で聴くことができない曲です。

赤の素敵なステージ衣装をまとって舞台に現れた徳田さん、そして FAZIOLI から弾き出される澄んだ音色と愛の情念。数十分間、シューマンの世界に引き込まれました。

もう一つのお目当ては、ラフマニノフのピアノソナタ第2番。力強さと哀愁と優雅さが入り混じる音の世界に浸りました。また帯広・十勝まで演奏に来てください! (むらた・ゆうほ、本会会員、帯広市在住)



それから

前に詠んだプラスチック製の風車は、やがて朝顔の蔓が巻き包みました。また、傍に植えた菊は、今年もう二度目の花を咲かせています。

zapach chryzantem 菊の香や
w środku nocy dreptanie 寝巻の夫の
męża w piżamie 小さな歩

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

zgasły latanie 灯の消えて
w ciemności mgłą utkana 霧で編まれた
droga do pracy 通勤路

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

一歳の頭上に鯨雲ありて
本もたず妻子ももたず冬木立
冬帝の旅団シベリア越えてくる

岩見沢市、霜田千代磨

《新会員のひと言》

越野 誠 です

このたび、北海道詩人協会員の縁で入会させていただきました越野誠です。室蘭工業大学を卒業したあと企業2社を経て今金町役場へ入庁しました。

ポーランドへは行ったことはありませんが、今金町教育委員会の社会教育事業で訪問したウポポイや直木賞受賞作の『熱源』を読んだり、その当時はポーランドのことを意識していませんでしたが、すぐそばにピウスツキが存在していたことに深い縁を感じております。ウポポイで食べた三平汁の味は記憶に新しいものであり、『熱源』についてはフェイスブックで友だちだった参議院議員が紹介していたりと、心に根を下ろしておりました。

また、YouTuber「かていん」名義のピアニスト角野隼斗さんの動画にも夢中になっておりましたので、ショパンにも知らずふれていたようです。仲の

良い栄養士さんからも、知人のベトナム人が Apple のインターンシップで撮ったショパン像の写真を見せてもらい、マズルカやポロネーズに夢中になっていました。



北海道詩人協会では「北の詩祭」を通して朗読のイロハを経験させていただき、また嗜んでいる短歌の奨励賞で縁のあった杉原千畝や隠岐の島町など、知らずにポーランドが私の背中を支えていることを今回得られた縁によって気づかされました。

コロナ禍や遠方であることから文化協会の事業のすべてに参加することは難しいですが、頂いたご縁を将来につなげていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願い致します。

(こしの・まこと、北海道詩人協会会員)



俳句投稿十年を経て

「POLE」に俳句を投稿し始めてから十年が経ちました。最初は美しい世の中への新鮮な感動から生まれていたものが、次第に私の内面的な不安や混乱状態を反映したものとなってしまいました。何度も投稿するのを止めようかと考えたことがありました。俳句を詠むつもりで川柳になってしまったこともよくありました。それでも時には沈黙考の中で出来上がるものがあります。

kręci się kręci 風車
kolorowy wiatraczek 廻り廻って
w czerwcowym deszczu 雨彩う

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

leśna polana 森開け
pośród źdźbeł traw mignęły 草間に閃く
sluchy zająca 野兔の耳

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

畑、蛙、ボウフラと吾慈雨を待つ
ドッカンと特大花火打ち上げろ
秋風はつむじ曲がりの路地抜ける

岩見沢市、霜田千代磨

新刊紹介

『窓の向こう〜ドクトル・コルチャックの生涯』
アンナ・チェルヴィンスカ-リデル (著)、田村和子 (訳)

石風社
2021.5

戦争の記憶

戦争と聞いて何時のどの戦争を思うかで世代が分かるという。昭和23年生れの私はベビー・ブーマー戦後団塊の世代である。では昭和20年12月生れの姉は終戦世代？ 7月の池澤夏樹、3月の吉永小百合は戦中世代？ 昭和17年生れの夫も戦中世代。

『窓の向こう』の主人公はユダヤ人医師ヤヌシュ・コルチャックことヘンリク・ゴールドシュミット。1878年ロシア占領下のワルシャワに生れ、ユダヤ人孤児



施設を経営。ナチスにより二百人の子供達とともに1942年8月5日トレ布林カ絶滅収容所に送られ64年の生涯を終えた。

アンジェイ・ワイダ監督が映画化し3年前の例会で「講演と映画の集い」、パネル展も行われた。

ところでお気づきだろうか。1942年は昭和17年。夫はその時生後5カ月の乳呑み児であった。79歳の夫の誕生に注目するとき、私の未生に起きた戦争の歴史がぐいっと接近して来るのを感じた。

女性達の存在が凄い

コルチャック先生に魅せられたのは勿論だが、女性達の存在が凄い。同居の母方祖母は「お前さん、まるで哲学者だよ」と幼い孫に愛情を注ぎ、此処一番では娘婿にもピシヤリと強い態度で守る。

ステファ嬢とは互いに同志愛を感じ、一緒に孤児院を経営。妻帯しなかった先生だが、時に口煩い女房のような彼女とは、一生信頼し合った。留守の時の燥(はしゃ)ぎようといったら、子供以上の子供っ振りで、いやはやなんとも。

ポーランド女性ヴォシヤの存在も見逃せない。蔑まれた職業の洗濯をこなし、その上ステファ嬢を献身的に支え戦時下の子供達を守った。

ユーモアを武器に

厳格だった父の精神病院での死、自身のチフスの看病で命を落とした母。この哀しみを先生は執筆で乗り越え数度の従軍、迫害の苦難の日々を子供達と生き抜いた。飛び切りのユーモアを武器に。

その先生の偉人伝とせず、日常のエピソードをイキイキと表現し、語り、子守唄、お伽話風に丁寧に紡ぐ著者の力量に目を見張る。ところどころそれと分かる楽しい仕掛けもあり、これには唸(うな)った。

『サハリン島』

エドゥアルド・ヴェルキン(著)、北川和美・毛利公美(訳)

河出書房新社

2020.12

淡々とした語り口に支えられた異常な世界の描写

『ゴールデンカムイ』とチャーホフの『サハリン島』を現代風にした SF 小説かと思って読むなら、いくぶんかは当たっているが、そんな読者の想像をさらに超えたところまでないところまで連れていってくれる。

最近ピウスツキ関連の書籍が続けて出たこともあり、サハリンへの関心が高まっていると思われる中、監獄と凶悪な脱獄囚。海と山と森、野生の熊、移民の集団と虐げられる先住民族というおなじみ(?)のサハリン・樺太の風景が、ゾンビ、放射能汚染、人間(とりわけ中国人)の死体を原料にした究極のリサイクル産業、民衆の不満のガス抜きとして実施される人種差別的な「ニグロぶちのめし」(ただし白人もニグロに分類される)など、想像力のドーピングとでもいうような過剰な SF のアイデアで埋め尽くされるのだ。

実は今年の2月、日本語訳の刊行にあわせたオンラインのイベントに著者のヴェルキン氏と翻訳者の北川和美氏・毛利公美氏を招いて講演していただく機会があった。とんでもない小説のインパクトとは裏腹に、たいへん知的で穏やかな人柄の方である。芥川や三島から、小松左京のような SF 作家や特撮映画まで、日本の文化にお詳しいのだが、ロシアの知識人としてはそれほど並外れてはいない。多くのロシア人が抱く、少し理想化されたきらいのある日本のイメージを煮詰めて蒸留すると、こんな

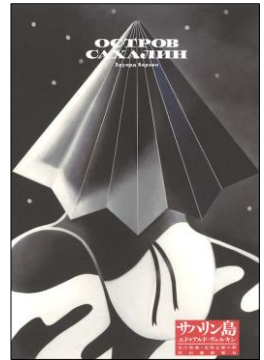
怪物ができあがるということだろうか。これまで主に児童文学やヤングアダルト小説を書いており、大人向けの作品はこれが初めてなのだそうだ。

主人公は日本人とロシア人の親を持つ女性だが、聴衆からの感想のひとつで、一人称の語り手の性別が、しばらく読み進めるまで分からなかったというものがあつた。確かにそうなのだが、アクション場面の多い小説なのでヒロインが男性的あるいは中性的に描かれるという訳でもない。翻訳の文体のせいもあるかもしれない(ロシア語原文は女性形があるのですぐに性別が分かる)。しかしどうも作者は主人公の性別を小説のプロットにとってもそれほど大きな意味をもつものとは考えていない節がある。

そういえばチャーホフの『サハリン島』も、語り手の性別が特に読者に訴えるものはない。同じタイトルでも全く異なる印象を与える二つの作品だが、記録文学的に淡々としながら、好奇心旺盛なところもあるという語り口と視点が、異常な世界の描写を支えているところは共通しているのかもしれない。

最後になって申し訳ないが、サハリンが舞台とはいえ、ポーランド人は登場しない。

(越野 剛、慶應義塾大学准教授、本会会員)



ポーランド&ニッポン歳時記 35



エラン・ヴィタール

私の子供のころの思い出の一つは、田舎に住むお祖母ちゃんの薔薇の庭で遊んだことです。その影響か、私たちもベランダに薔薇を一株植えました。ピンク色の薔薇で、花言葉はポーランド語で「友情」です。初めての冬、暖かくなりかけた2月の末に、薔薇を包んだ藁囲いから新鮮な葉が一枚顔を出したのです。

ciepły dzień pierwszy	もう温し
znad chochoła wyrasta	藁囲いから
świeży liść róży	ばら若葉

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

ogród za domem	裏庭の
w zieleni kos ukryty	茂みか 歌鳥
wita poranek	朝を告ぐ

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

曲水や赤禪の一茶あて
 京よりの妣の持参の雛の軸
 (妣(はは) || 亡き母)
 OH! 出たか野辺のごちそうフキノトウ
 岩見沢市、霜田千代磨



今年の 11 月

ポーランドで 11 月はお盆の季節ですが、11 日は独立記念日です。そして教会のカレンダーでは聖マルチンの日、ポズナンの中心にある聖マルチン通りのお祭りの日でもあります。この日、普段は雄牛の角の形をした芥子と胡桃の菓子パンを食べますが、今年は何故か蹄鉄型の芥子と胡桃のクルワッサンが売られています。

zimne powietrze	寒空の
z kubeczkim grzańca w ręku	ホットワインや
wspominam zmarłych	死者想う
Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ	

złoty liść klonu	楓の葉
oddechem wiatru gnany	風に駆られて
święteczny spacer	散歩道
Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ	

初孫は秋の大きを吸ふて寝る
 極月のキラキラ星はもう出たか
 クリストよポインセチアの血の色よ
 岩見沢市、霜田千代磨

第 34 回定例総会議案

(議長 尾形芳秀)

2020/11/21 札幌エルプラザ大研修室にて会員 12 名が出席、全議案が賛成多数で承認されました。

第 1 号議案 2020 年度(2019.9-2020.8)活動報告について(小笠原正明)

1.《第 34 回定例総会》、豊平館、2019 年 10 月 12 日(土)15:30~16:30 総会 1F 下の広間、17:30~19:30 懇親会 2F 広間(参加者)総会:会員 16 人、懇親会:日本人会員 18 人、一般 7 人、札幌フォークダンスクラブ 7 人、北海道 aibo の会 9 人、ポーランド人と家族 17 人

2.例会等主宰行事

(1)《第 92 回例会》講演会「二風谷アイヌ文化博物館特別展の見どころ」長田佳宏;新井藤子「アマレヤ劇団とアイヌ女性たちの合同公演 2019 について」丸山博、札幌エルプラザ 4F 第 3 研修室、2019 年 11 月 6 日(水)18:30~21:30、参加者 24 人

(2)《二風谷アイヌ文化博物館特別展見学ツアー》札幌⇄二風谷、11 月 17 日(日)9:00~19:00、参加者 8 人

(3)《第 93 回例会》ポーランドサロン①ポーランドってどんな国?、ラファウ・ジェプカ、札幌エルプラザ 4F 大研修室 C、11 月 29 日(金)14:00~16:00、参加者 23 人

(4)《第 94 回例会》ポーランドサロン②ポーランド語でご挨拶、アグニェシュカ・ポヒワ、札幌エルプラザ 4F 大研修室 A、2020 年 4 月 6 日(月)14:00~

16:00、参加者 14 人

(5)《第 95 回例会》平取町立二風谷アイヌ文化博物館第 25 回特別展「1903 年夏の平取~B・ピウスツキたちの短期調査より」移動展 in 札幌、会場:札幌エルプラザ、アンケート回答 60 枚超

①〈パネル展示〉7 月 18 日(土)~26 日(日)2F 交流広場、入場(記帳)者約 100 人

②〈講演会〉7 月 18 日 4F 研修室 3「プロニスワフ・ピウスツキってどんな人?」新井藤子「移動展 in 札幌の見どころ」長田佳宏、カムイユカラ(神謡)「カケスとカラス」披露:貝澤ユリ子(平取町二風谷アイヌ語教室)、参加者 15 人

③〈上映会&座談会〉7 月 24 日(金)4F 大研修室 AB (1)ドキュメンタリー映画『ピウスツキ・プロニスワフ~流刑囚、民族学者、英雄』2016 ヴァルデマル・チェホフスキ監督(2)座談会「プロニスワフ・ピウスツキ人物伝~史実とフィクションが伝えること」司会:新井藤子、発言:井上紘一ほか、参加者約 40 人

3.会誌 POLE 発行 No.98(2019.9.5), No.99(2020.1.30), No.100(5.20)

4.運営委員会①2020.1.16②4.21(書面)③6.22④8.24

5.後援事業

たことは、世界史の中でも稀有な例であろう。これには、両国政府ばかりではなく、双方の名もなき人々の貢献が多々あったことは忘れられない。

本書は、ポーランド人学者の労作で、日本には

各論はあっても、このような通説ものはないのは残念である。本書のためには、多くの方々の貴重な情報提供があったことも、記憶しておきたい。

(おがた・よしひで、サハリン・樺太史研究家)

ポーランド・日本美術技術博物館マンガ刊 (絵本) 2019.9 (紙芝居) 2020.5

『遠い遠い東の国で有名になったプロニシ・ピウスツキ』
カタジナ・ノヴァク (文)、パウリナ・パジジェラ (絵)

小さな絵本が紙芝居に 熊谷 敬子

ここ数年、本当に幾多のシーンでこの名を聞いたことだろう。重厚な学術論文や、民間の歴史研究文献、映画、創作詩、エッセイ、直木賞受賞小説はまだ記憶に新しい。私の中ではとうに伝説化したヒーロー、ピウスツキ。

当会でも、継続の誉れ高い“午後のポエジア”をはじめ、ここ数年、彼の関連例会は衰え知らずである。極め付けは、この児童向けの小冊子が、何と紙芝居として製作されましたとのニュース。

白老町のウポポイ開業が、コロナ禍で遅れながらも、ようやくオープンしたというタイミングである。



遠い遠い西の国ポーランドのご縁からの伝達で、皮肉にも道民の私が、近くて近すぎて痛みさえ覚える「アイヌ文化とは」を

受理するのだから、本末転倒の情けなさに、深謝するしかない。

しかしそんな矛盾を清算出来るほど、私のヒーロー、ピウスツキの一人称の語り口と、児童書の持つシンプルさが逆に爽快で、アイヌ女性の象徴を全てチュフサンマに捧げたいほど、二人の物語が清冽に迫るのは不思議である。

ましてや、彼の人生の舞台が紙芝居という枠組で紹介出来るとなったら、是が非でも私にその歳月をめぐらせて頂きたいと、強気でいう衝動が走る。

ラストのページには、彼の足跡の 29 都市が世界地図のイラストに記載され、近代の旅の過酷さよりも、生き抜いた人間像の壮大さが際立つ。

これに触れた子供達は身乗りだして目を輝かせるに違いない。ポーランドの子供達はまっさらな気持ちでアイヌ文化に触れ、染み込ませるであろう。

我が北海道の子供達にも、近い近いサハリンで、遠い遠いポーランド人が有名になったお話を聞かせてみたいものだ。
(くまがい・けいこ)

ポーランド&ニッポン歳時記 33

夏の日曜日ショパン・コンサート

子どもの頃初めて書いた短編の一つは、ワルシャワのワジェンキ公園で行われていた夏のショパン・コンサートの印象についてで、当日のピアニストは青いドレスを着た日本人女性でした。そのコンサートは私にとって日本との最初の接触でした。今年の夏休み、日曜日にワジェンキ公園へコンサートを聞きに出かけました。ショパンの銅像の下にピアノはなく、周囲に立てられたスピーカーからスタジオ収録の演奏が聞こえるだけでした。近い将来また普通のコンサートに戻れることを願うというアナウンスが流れていました。

w czasie pandemii スピーカに
wysokie dźwięki nikną 消える高音
w szumie głośnika パンデミア
Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

burza codzienna 日々嵐
raz rano raz wieczorem 朝な夕なに
huczy za oknem うなる外
Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョートル・ヴジェチョノ

遠郭公武四郎の十勝越え
山崩れ河川決壊夏の乱
コロナ禍の吾ら
脳は痩せ肉体太る金魚かな
岩見沢市、霜田千代磨



療養生活

夫が翻訳した、ポーランドの芸術家ユゼフ・ロバコフスキの映像作品の展覧会が東京で終わったばかり。一方私は油絵やアクリル絵を描くのを一休みしています。絵を描くときに言葉にならない錯綜した気持ちを開放できるのですが、今は手術後なのでむしろやさしい日常生活に戻ることが大事です。

złoto ikony

君戻り

w księżycowej poświacie

眠る月影

maż śpi po pracy

聖画(アイコン)かな

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

cisza zapadła

静かなり

tylko kwiat na kampusie

キャンパスの花

kwitnie samotnie

独り咲く

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

唇に秘めたる力絵踏かな
春の雪祇園舞子の髪にのる
春うらら食いけの後の眠けかな

岩見沢市、霜田千代磨

《新会員のひと言》

二風谷アイヌ文化博物館に勤めて

長田 佳宏



日高管内・平取町立二風谷アイヌ文化博物館の長田佳宏と申します。

2019年10～12月に行った特別展「1903年夏の平取～B・ピウスツキたちの短期調査より」では、協会のご後援をいただき、大変お世話になりました。特に11月17日に実施した「講演と映画のつどい」では、協会主催の二風谷ツアーでみなさまに当館の取り組みを見ていただくことができました。

特別展の準備を含め1年以上にわたる会とお付き合いのなかで、私自身、北海道とポーランドの文化交流やさまざまな取り組みをもっと知りたいと思うようになりました。2018年9月に博物館の仕事(アイヌ文化の展示協力)でポーランドの日本美術技術博物館“マンガ”館へ行き、クラクフの歴史と文化を見聞したのも一つのきっかけでした。

また、2019年11月には松本照男さんのご紹介でヴィェスワフ・タイス氏、マレック・シヴィツキ氏を平取町に招へいし、地元のPTA会員に「子どもの権利条約」についてご講演いただくこともできました。そうしたことから、ここ数年ポーランドに関わる深い縁を感じています。

2020年7月には、特別展「1903年夏の平取」の移動展を札幌エルプラザで計画しています。引き続き北海道ポーランド文化協会にお世話になるとともに、今回からは私も一会員として携わらせていただきます。今回の展示は札幌圏の方々に平取町のアイヌ文化をより深く知っていただく機会になると思い、私としても楽しみにしています。今後ともみなさまのお力添えをよろしくお願いいたします。

(おさだ・よしひろ、2020.2 入会)



雪まつりでフォークダンス

小川 真生

雪まつり会場でフォークダンスを踊るのは初めての体験でした。2020年2月8日(土)午後、大通7丁目HBCポーランド広場特設ステージで札幌民族舞踏研究会の一員として踊ったのです。全6曲のうち2曲目「クヤヴィヤクチェルボルネヤブシコ」、3曲目「ククエチカ」、6曲目「ルブリンのポロネーズ」と3曲踊ることになりました。

ポーランドのフォークダンスは衣装も美しく、動きも優美ですから、年末頃からの特別練習も楽しくて、繰り返し練習をして当日に備えました。

「雪は降っても良いけれど、雨や雷は困るわね」などと思っていました。ワクワクして迎えた当日は晴れでした。ワジェンキ公園の水上宮殿とショパン像の前の舞台上、とても晴れがましい気持ちで踊ることができました。床が滑って転びそうでしたが、なんとか持ちこたえて、最後の「ルブリンのポロネーズ」を総勢34名で踊り終えたときは、ホッとしました。

道行く観光客の方がカメラを向けてくれたり、応援に来てくれた友人が声を掛けてくれたり、とてもうれしかったです。皆で笑い合えた、忘れられない一日になりました。(おがわ・まき、2020.2 入会)

2つの心、4つの瞳～いのちの限り愛す

氏間:確かに…時系列に従って舞台が移り変わりますが、劇中に流れる曲は《オヨ～ヨ～ィ》というリフレインが印象的な愛の民謡「2つの心 Dwa Serduszka」、物語が進むにつれいろいろなバージョンに姿を変え心に染み入る忘れられない名曲《ヴィクトルとズーラ⇒2つの心》へと…。パリで濃密に愛憎劇が展開するあたりは、生き抜くため複雑な愛情表現にならざるを得ません。違った環境でも、このタイプはエネルギーに溢れ常に戦っていて、強烈でいつも動き回って稀有な相互理解関係を結び、結局はたぶん一緒にはなれない孤独なる魂かと…。超越できるか…、サステナブルか…、やはり絶望的な関係でしょうか…

安藤:ロシア革命と内戦の中で多くの作家や芸術家が西側(向こう側)へ亡命しました。その後、ナボコフのように米国で大成功する作家もいれば、ゴーリキーのようにソ連に戻って作家同盟議長まで上り詰めた者もいます。冷戦時代ポーランドでも同じことがくり返されますが、映画の主人公たちは収監覚悟で帰国し死を選ぶわけで、とても美しいドラマに仕上がっていますね。

松山:その昔から、重税、兵役、強制改宗などの政治的圧力から逃れた亡命者たちの帰国がいかに困難だったかが描かれていますね。

また、冒頭とラストの教会の廃墟は大戦の傷痕か、あるいはポグロムかホロコースト後に放棄されたシナゴークなのか…剥がれた漆喰の痕にアイコンがみえるのは何故か…いずれにしても、人々の究

極の祈りは未だ聞き入れられず、神は沈黙を保つ。

吹き抜ける風の向こうへ

氏間:松山さんは DVD でくり返し確認できますね(笑)。十字路のある風景に佇み教会の廃墟で二人が画面右へ消え、繊細な哀しみを漂わせて野分めいた風が吹き抜け…ラストクレジットに流れるグレン・グールドの弾く「ゴールドベルク変奏曲」の「アリア」が二人の魂を浄化するように深い余韻を残します…人々が明確な選択を下した時代でした。

みなさま! 楽しい時間をありがとうございました。
(あんどぅ・あつし、うじまたいこ、さどぅ・こういち、まつやま・さとし)



パヴェウ・パヴリコフスキ 監督



1957年ポーランド・ワルシャワ生まれ。14歳で母国を離れ、ヨーロッパ各地を転々としたのち英国に拠点を構え、80年代末からドキュメンタリー番組を監督。母国で撮影した「イーダ」(2013)がポーランド映画初のアカデミー外国語映画賞を受賞。同じく母国で製作した「COLD WAR あの歌、2つの心」(18)で第71回カンヌ国際映画祭最優秀監督賞受賞、第91回アカデミー賞では外国語映画賞・監督賞・撮影賞の3部門にノミネート。



ポーランド&ニッポン歳時記 31



「ロラティ」

冬には陽が早く沈み、遅く昇ります。この時期、朝早く子供たちがときには手作りの提灯を持って、教会に集まるという面白い習慣があります。「ロラティ roraty」(ラテン語の「ローラテ」から)と呼ばれます。おかげで、クリスマスまでの間、私たちの住んでいる周辺もより暖かく感じることができます。

bezlistne drzewo

宿木の

i tylko wciąż jemiola

緑溢るる

zielona rośnię

枯れ木かな

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

noc się wydłuża

夜が伸びて

na Warszawie Zachodniej

寒風さわぐ

hula wiatr zimny

西の駅

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

冬なみ 小樽より戻れば恋し冬の海
 津や没五十年伊藤整

岩見沢市、霜田千代磨